

# 消防年報

平成29年版



夕張市消防本部

# は し が き

この年報は、平成29年中における夕張市の消防現勢及び火災・救急をはじめとする各種統計を収録したものです。

なお、この年報は特記したものを除き、平成29年12月31日現在で収録したものです。

平成29年12月

夕張市消防本部

# 目 次

## 1. 夕張市の現況と消防の沿革

(1) 地 勢	-----	1 頁
(2) 人口・世帯数・消防職員数の推移	-----	2 頁
(3) 夕張市消防の沿革	-----	3 頁

## 2. 総 務

(1) 消防機構図	-----	17 頁
(2) 消防職員配置表	-----	18 頁
(3) 消防職員の勤続年数表	-----	19 頁
(4) 消防職員の年齢構成表	-----	19 頁
(5) 消防職・団員教育訓練等	-----	20 頁
(6) 消防職員特殊技能資格	-----	21 頁
(7) 消防団員配置表	-----	22 頁
(8) 消防団員の勤続年数表	-----	23 頁
(9) 消防団員の年齢構成表	-----	23 頁
(10) 叙位・叙勲・褒章受章者	-----	24 頁

## 3. 警 防

(1) 車両配置表	-----	27 頁
(2) 無線局一覧表①基地局	-----	28 頁
②固定局	-----	29 頁
③陸上移動局No. 1	-----	30 頁
③陸上移動局No. 2	-----	31 頁
(3) 消防水利	-----	32 頁
(4) 消防庁舎・分団詰所	-----	33 頁

#### 4. 救急・救助

(1) 月別救急件数	-----	34	頁
(2) 曜日別救急件数	-----	35	頁
(3) 時間別救急件数	-----	36	頁
(4) 過去5年間救急件数	-----	37	頁
(5) 傷病程度別件数	-----	38	頁
(6) 年齢区分別件数	-----	39	頁
(7) 救急講習実施状況	-----	40	頁
(8) 過去5年間救助件数	-----	41	頁

#### 5. 予 防

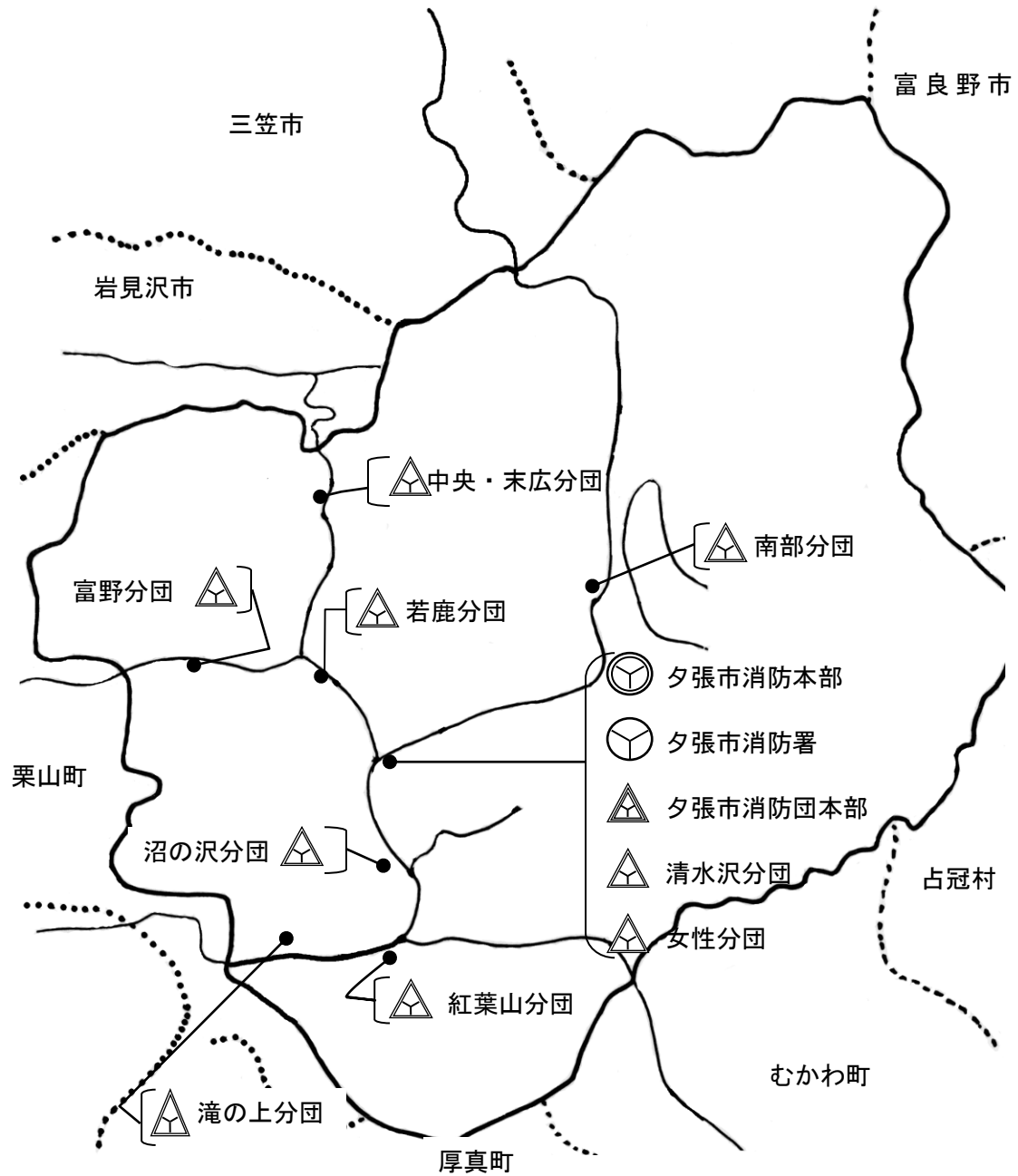
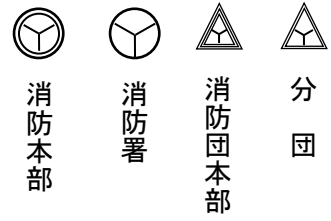
(1) 火災の概況	-----	42	頁
(2) 月別火災発生状況	-----	43	頁
(3) 過去5年間の月別火災発生状況	-----	43	頁
(4) 過去5年間の曜日別火災発生状況	-----	44	頁
(5) 過去5年間の時間別火災発生状況	-----	44	頁
(6) 覚知別火災発生状況	-----	45	頁
(7) 原因別火災発生状況	-----	46	頁
(8) 過去5年間における損害額の比較	-----	46	頁
(9) 過去5年間の地区別火災件数	-----	47	頁
過去5年間の地区別火災件数の割合	-----	47	頁
(10) 過去10年間の火災発生状況	-----	48	頁
(11) 過去10年間における火災種別の割合	-----	48	頁



# 1. 夕張市の現況と消防の沿革



# (1) 地 勢



## (2) 人口・世帯・消防職員数の推移

人口・世帯数

人 口	男	3,896 人	8,362 人
	女	4,466 人	
世 帯 数			4,876 世帯

人口・世帯数・消防職員数の推移（過去20年分）

年 別 \ 区 分	人 口	世 帯 数	消防職員数
平成9年	16,621	7,749	59
平成10年	16,121	7,624	59
平成11年	15,722	7,522	57
平成12年	15,361	7,462	56
平成13年	15,081	7,391	55
平成14年	14,626	7,264	53
平成15年	14,134	7,092	53
平成16年	13,806	7,031	51
平成17年	13,417	6,867	50
平成18年	12,828	6,628	47
平成19年	12,198	6,392	38
平成20年	11,739	6,224	38
平成21年	11,355	6,128	40
平成22年	10,944	5,970	39
平成23年	10,588	5,833	40
平成24年	10,211	5,679	38
平成25年	9,801	5,476	39
平成26年	9,440	5,319	38
平成27年	9,056	5,183	40
平成28年	8,685	5,009	40
平成29年	8,362	4,876	41



### (3) 消防の沿革

明 治	
30年 7月	私立夕張第1砦消防組発足
35年 6月	本町1・2・3丁目火災 焼失戸数435戸 死者13名
11月	公立登川消防組発足 棚橋久作氏が初代組頭 就任
39年 5月	本町4・5丁目火災 焼失戸数515戸
42年 4月	公立登川消防組2部制を採用
43年 8月	丁末1・2区火災 焼失戸数115戸
大 正	
3年 3月	本町4丁目火災 焼失戸数157戸
5年 5月	私設大夕張消防隊(南部)発足 並木松之助氏が隊長に就任
7年 2月	村名 夕張と改称 公立夕張消防組となる
8年 1月	公立紅葉山消防組発足 野瀬辰五郎氏が初代組頭に就任
9年 6月	大夕張(南部)義勇消防組発足 新豊利右衛門氏が組頭に就任
10年 5月	公立夕張消防組3部制を採用 水谷新次郎氏が二代目組頭に就任
11年 4月	本町4・5丁目火災 焼失戸数339戸
5月	公立夕張消防組4部制を採用 南部立根氏が三代目組頭に就任 公立真谷地消防組発足 高橋善工門氏が初代組頭に就任 ガソリンポンプ1台購入 公立夕張消防組器具置場2ヶ所新設
12年 12月	公立夕張消防組 成績優秀につき金馬簾1条使用許認 公立夕張消防組 中川平蔵氏が四代目組頭に就任
13年 7月	公立夕張消防組 田代末吉氏が五代目組頭に就任
14年 8月	公立夕張消防組 両角嘉平氏が六代目組頭に就任
9月	大夕張義勇消防組を公立大夕張消防組に改組 小紙元春氏が初代組頭に就任
15年 4月	公立楓消防組発足 福原信俊氏が初代組頭に就任
7月	公立夕張消防組 成績優秀につき各部全員金馬簾2条使用許認

昭 和		
2年	2月	高松1区火災 焼失戸数119戸
3年	1月	公立真谷地消防組 成績優秀につき金馬簾1条使用許認
	3月	公立真谷地消防組ガソリンポンプ1台購入
	4月	公立夕張消防組 特科部（破壊班）設置
4年	4月	高松1区火災 焼失戸数165戸
	8月	公立清水沢消防組発足 太田顕太郎氏が初代組頭に就任
	9月	公立夕張消防組第2部詰所 本町5丁目1条通りに新設 三菱大夕張鋳業所鹿島移転
	10月	私設三菱大夕張義勇消防組（3部制）発足 公立夕張消防組第3部（本町1丁目）新築移転
	11月	特科部器具置場を警察署前に設置
5年	11月	本町2丁目火災 焼失戸数235戸 三菱大夕張義勇消防組を公立大夕張消防組に合併改組 本部を千年町に置き3部制を採用（1部千年町、2部南部3部鋳業所）
6年	4月	公立沼の沢消防組発足 三好定太郎氏が初代組頭に就任
9年	9月	公立夕張消防組 常備制採用常備消防本部設置 岡村亀吉氏が初代本部長に就任（常備員9名） 公立大夕張消防組規律訓練優秀につき金馬簾1条使用許認
	10月	旭町火災 焼失戸数194戸 死者1名 ポンプ自動車2台購入 本部第2部に配置
10年	1月	公立夕張消防組 岡村亀吉氏が七代目組頭に就任
	5月	公立夕張消防組第2部本町4丁目（現本町支署地）に詰所を 新築移転 望楼（14m）設置
12年	10月	公立夕張消防組常備消防本部長 岡村亀吉氏が退任 越田雪次郎氏が二代目本部長に就任
14年	4月	勅令「警防団令」公布により、公立夕張消防組を夕張警防団に改組 部落消防組を分団として統合 前田一氏が初代警防団長に就任（常備本部17名）
15年	3月	前田一氏が夕張警防団長を退任
	4月	能瀬荘吉氏が夕張警防団二代目団長に就任
	5月	大夕張警防団発足（大夕張分団が夕張警防団から独立） 山内亀三郎氏が初代団長に就任

16年	5月	山内亀三郎氏が夕張警防団長を退任
	6月	片岡頼義氏が夕張警防団長二代目団長に就任
	7月	夕張警防団第2部増改築 常備本部移転し、ポンプ自動車2台配置 第1部、第2部を本部に統合 夕張警防団第3部本町1丁目にポンプ自動車1台、常備員2名配置 夕張警防団清水沢分団にガソリンポンプ1台配置
	9月	ポンプ自動車1台購入 常備本部に配置
	12月	第7部（若菜）ポンプ自動車1台 常備員1名配置
17年	2月	能瀬荘吉氏が夕張警防団長を退任
	3月	夕張警防団3部制を採用（第1分団 鉱業所、第2分団 千年町 第3分団 南部） 宮崎猪三郎氏が夕張警防団 三代目団長に就任
18年	4月	市制施行 夕張警防団 鹿島警防団に改称
19年	8月	宮崎猪三郎氏が夕張警防団長を退任片岡頼義氏が鹿島警防団長を退任
	9月	万仲余所治氏が夕張警防団四代目団長に就任 松井栄氏が鹿島警防団三代目団長に就任
21年	1月	松井栄氏が三代目団長を退任
	2月	吉田重明氏が四代目団長に就任
	4月	吉田重明氏が四代目団長を退任
	5月	久保簾三氏が五代目団長に就任
22年	2月	久保簾三氏が五代目団長を退任
	3月	池田幸吉氏が六代目団長に就任
	4月	「警防団令」公布により、夕張警防団を夕張消防団に改称 越田雪二郎氏が初代団長に就任
	8月	鹿島警防団を鹿島消防団に改称 池田幸吉氏が初代団長に就任
23年	3月	越田雪二郎氏が夕張消防団長を退任
	4月	橘内末吉氏が団長職務代理に就任
	5月	夕張消防団第5部（末広）詰所新築 ポンプ自動車1台 常備員1名配置
	12月	夕張市消防団設置条例制定
24年	4月	夕張市消防団設置区域 組織に関する規制制定に伴い夕張消防団 9分団 定員403名 鹿島消防団6分団 定員245名に改組
	5月	本町1・2・3丁目火災 焼失戸数335戸 死者1名

		池田幸吉氏が鹿島消防団長を退任
	6月	石坂秀一氏が二代目団長に就任
	10月	橘内末吉氏が夕張消防団長職務代理者を退任
	11月	消防本部設置条例が制定され消防本部、消防署設置 菅原重太郎が初代消防長に就任 職員57名任用発令 福田正実氏が夕張消防団二代目団長に就任
25年	5月	石坂秀一氏が鹿島消防団長を退任
	6月	肥後国吉氏が三代目団長に就任 丁末分遣所 真谷地分遣所設置 ポンプ自動車1台、職員各1名配置 清水沢市街火災 焼失戸数52戸
	10月	ポンプ自動車1台購入
	11月	清水沢分遣所設置 ポンプ自動車1台、職員各1名配置
26年	5月	肥後国吉氏が鹿島消防団長を退任
	6月	新井格二氏が四代目団長に就任
	9月	ポンプ自動車1台購入
27年	5月	真谷地市街火災 焼失戸数121戸 死者1名
28年	5月	南部分遣所設置 ポンプ自動車1台、職員各2名配置
	6月	空知消防操法訓練大会ポンプ車操法に中央分団が出場し準優勝
29年	4月	豪雨と融雪出水による水害 末広、鹿の谷、新千代田で 浸水家屋237戸 新井格二氏が鹿島消防団長を退任
	5月	福原鉄夫氏が五代目団長に就任
	9月	台風15号による風害 全市 風害による被害家屋367戸
30年	2月	福原鉄夫氏が鹿島消防団長を退任
	3月	中山正人氏が六代目団長に就任
	4月	消防職員定数改正(定員80名)
	12月	ポンプ自動車2台購入 丁末分遣所 南部分遣所へ配置
31年	4月	中山正人氏が鹿島消防団長を退任
	5月	福田正氏が七代目団長に就任
32年	6月	ポンプ自動車2台購入 清水沢分遣所、沼の沢分団へ配置
33年	4月	消防職員定数改正(定員95名)
	7月	ポンプ自動車2台購入 若菜出張所、紅葉山分団へ配置
	9月	台風22号による風水害 全市で風水害による被害家屋261戸

34年	4月	清水沢分遣所を出張所に改組 職員7名配置
	9月	菅原重太郎が消防長を退任
	10月	南正吉（消防本部次長）が消防長に就任 日本損害保険協会ポンプ自動車1台寄贈される
	12月	福田正氏が鹿島消防団長を退任
35年	1月	志茂山正蔵氏が八代目団長に就任
	2月	福田正実氏が夕張消防団長を退任
	3月	岩田信夫氏が三代目団長に就任
	4月	消防職員定数改正（定員99名）
	5月	千年分遣所設置 ポンプ自動車1台、職員各2名配置
	6月	清水沢出張所庁舎 市職員住宅と併設し新築移転
	9月	消防本部庁舎新築 望楼、一斉指令電話（ずい北地区）設置
36年	1月	ポンプ自動車1台購入 本署へ配置
	7月	福住分遣所設置 ポンプ自動車1台、職員2名配置 集中豪雨による水害 全市 水害による被害家屋400戸
37年	2月	岩田信夫氏が夕張消防団長を退任
	3月	北村正久氏が四代目団長に就任
	4月	消防職員定数改正（定員102名）
	7月	鹿島消防団 消防庁長官から表彰状授与
	8月	台風9号による水害 全市で水害による被害家屋338戸
	10月	ポンプ自動車2台購入 本署、鹿島出張所へ配置
38年	4月	消防専用無線電話装置設置 基地局4局、移動局10局
	7月	消防職員定数改正（定員105名）
	8月	志茂山正蔵氏が鹿島消防団長を退任 藤平寛氏が九代目団長に就任
	9月	紅葉山分遣所設置 職員2名配置
	12月	ポンプ自動車2台購入 清水沢出張所、若菜出張所へ配置 鹿の谷分遣所を鹿の谷生活館新築に併設しポンプ自動車1台、職員2名配置
39年	1月	ポンプ自動車1台購入 本署へ配置
	3月	消防本部 夕張消防団 消防庁長官から竿頭授与
	4月	市役所より救急車の移管を受け救急業務開始 末広分遣所廃止
40年	2月	ポンプ自動車2台購入 真谷地分遣所、楓分団へ配置

	4月	消防職員定数改正（定員106名） 藤平寛氏が鹿島消防団長を退任
	5月	吉岡和夫氏が十代目団長に就任 沼の沢分遣所設置 ポンプ自動車1台、職員1名配置 紅葉山分遣所庁舎新築移転
	12月	ポンプ自動車1台購入 南部分遣所へ配置
41年	1月	夕張消防団、鹿島消防団 北海道知事から竿頭授与
	3月	夕張消防団、鹿島消防団 消防庁長官から表彰旗授与
	8月	広報車購入 本署へ配置 集中豪雨による水害 若菜以北で水害による被害家屋835戸
	11月	ポンプ自動車1台購入 本署へ配置 南正吉が消防長を退任
	12月	夕張市助役 吉田久が消防長事務取扱として就任 若菜出張所庁舎新築移転
42年	4月	消防職員定数改正（定員104名）
43年	2月	ポンプ自動車1台購入 本署へ配置 救急車1台購入（本署救急車更新）
	3月	南部分遣所庁舎新築移転
	4月	消防職員定数改正（定員101名）
	9月	吉岡和夫氏が鹿島消防団長を退任
	10月	小泉勤氏が十一代目団長に就任
	12月	水槽付ポンプ自動車1台購入 鹿島出張所へ配置
44年	4月	消防職員定数改正（定員99名）
	11月	夕張市助役 吉田久が消防長事務取扱を退任
	12月	八反田政男（消防本部次長）が消防長に就任
45年	1月	ポンプ自動車1台購入 鹿島出張所へ配置
	3月	登川駐在所庁舎新築移転 千代田中学校火災
	6月	指揮車購入 本署へ配置
	11月	日本損害保険協会からポンプ自動車1台の寄贈を受け 沼の沢分遣所へ配置
46年	8月	北村正久氏が夕張消防団長を退任
	9月	安達敏雄氏が五代目団長に就任

	ポンプ自動車 1 台購入 鹿島出張所へ配置
	小泉勤氏が鹿島消防団長を退任
1 0 月	浅山五生氏が十二代目団長に就任
4 7 年 1 2 月	安達敏雄氏が夕張消防団長を退任
4 8 年 1 月	高山泰氏が六代目団長に就任
3 月	ポンプ自動車 1 台購入 本署へ配置
4 月	乗用車 1 台購入 本署へ配置
8 月	災害用救命ボート購入 本署へ配置
1 0 月	ポンプ自動車 2 台購入 清水沢出張所、菊水分団へ配置
1 1 月	浅山五生氏が鹿島消防団長を退任
1 2 月	佐藤健一氏が十三代目団長に就任
4 9 年 3 月	登川駐在所を楓分遣所に改組 職員 2 名配置
4 月	南部分遣所を出張所に改組 職員 4 名配置 菊水分遣所設置 ポンプ自動車 1 台、職員 2 名配置
1 1 月	沼の沢分遣所庁舎新築移転 職員 2 名配置 ポンプ自動車 1 台購入 南部出張所へ配置
1 2 月	福住分遣所廃止
5 0 年 4 月	消防職員定数改正（定員 9 6 名）
7 月	北海道消防操法訓練大会小型ポンプ操法に中央分団が出場し準優勝
8 月	八反田政男が消防長を退任
9 月	鶴川伸（水道部長）が消防長に就任 1 丁目分遣所庁舎新築
1 1 月	ポンプ自動車 1 台購入 本署へ配置 旧北陵中学校火災
5 1 年 3 月	末広分団器具置場新設 ポンプ自動車 1 台配置
6 月	佐藤健一氏が鹿島消防団長を退任
7 月	太田好彦氏が十四代目団長に就任
5 2 年 8 月	千年分遣所廃止
1 0 月	救急車（2 B 型）1 台購入 清水沢出張所へ配置
1 1 月	南部出張所庁舎新築移転 職員 8 名配置 菊水分遣所廃止 電話普及により火災報知機撤去
5 3 年 1 月	ポンプ自動車 1 台購入 南部出張所へ配置

	4月	消防職員定数改正（定員94名）
	8月	高山泰氏が夕張消防団長を退任
	9月	品川義雄氏が七代目団長に就任
	10月	消防職員待機住宅1棟4戸新築（南部東町） 夕張市消防音楽隊発足（隊員27名）
	12月	丁末分遣所廃止
54年	1月	富野分団詰所移転改修 ポンプ自動車1台配置
	2月	ポンプ自動車1台購入 清水沢出張所へ配置
	4月	消防職員定数改正（定員91名）
	5月	鷺川伸が消防長を退任
	6月	中村克好（市長公室長）が消防長に就任
	11月	滝の上分団詰所新築移転 消防職員待機住宅1棟4戸新築（南部東町）
55年	1月	ポンプ自動車1台購入 本署へ配置
	5月	太田好彦氏が鹿島消防団長を退任
	6月	安月允也氏が15代目団長に就任
	9月	日本損害保険協会からポンプ自動車1台の寄贈を受け真谷地分遣所へ配置
	10月	真谷地分遣所庁舎新築移転
	12月	ポンプ自動車1台購入 本署へ配置
56年	4月	消防署組織の規程改正 清水沢出張所、南部出張所を支署に改組
	7月	北海道消防ポンプ車操法に清水沢分団が出場し準優勝
	10月	ポンプ自動車1台購入 紅葉山分遣所へ配置
	11月	沼の沢分遣所ホース乾燥塔 サイレン塔新設 品川義雄氏が夕張消防団長を退任
	12月	石川十四夫氏が八代目団長に就任
57年	4月	消防職員定数改正（定員83名）
	7月	中村克好が消防長を退任（総務部長発令） 小椋正一（民生部長）が消防長に就任
	10月	富野分団サイレン塔新設 ポンプ自動車1台購入 沼の沢分遣所へ配置
58年	3月	安月允也氏が鹿島消防団長を退任
	4月	星靖男氏が十六代目団長に就任 消防職員定数改正（定員80名）



10月	清水沢支署庁舎及び待機宿舎新築移転 同支署に通信司令室を設置 消防緊急指令装置及びサイレン吹鳴遠隔装置を導入
11月	ポンプ自動車1台購入 楓分遣所へ配置
12月	鹿島出張所新築移転 夕張南高等学校火災
59年 4月	消防職員定数改正 (定員78名)
5月	三菱南大夕張炭鉱下請従業員宿舎火災 (鹿島栄町) 保険金目当ての放火による出火 消防職員1名殉職
6月	指揮車購入 本署へ配置
8月	ポンプ自動車1台購入 1丁目分遣所へ配置
9月	日本損害保険協会から救急車(2B型)1台が寄贈され清水沢支署へ配置
10月	夕張消防団夕張新炭鉱分団を清陵・宮前分団に改称
60年 9月	ポンプ自動車1台購入 鹿の谷分団配置
11月	消防署組織の規程改正 1丁目分遣所、鹿の谷分遣所、真谷地分遣所を廃止、分団へ移行
61年 4月	消防職員定数改正 (定員73名)
9月	ポンプ自動車1台購入 南部分団へ配置
11月	消防署組織の規程改正 楓分遣所を廃止分団へ移行 小椋正一が消防長を退任
12月	夕張市助役 中村克好が消防長事務取扱に就任
62年 5月	夕張市助役 中村克好氏が消防長事務取扱を退任
6月	夕張市助役 梶田秀男が消防長事務取扱に就任 夕張市助役 梶田秀男が消防長事務取扱を退任 星靖男氏が鹿島消防団長を退任
7月	佐々木茂(消防署長)が消防長に就任 野田真氏が十七代目団長に就任
9月	末広分団車庫増築 消防職員定数改正 (定員67名) ポンプ自動車1台購入 若菜出張所へ配置
11月	幌南分団詰所新築
12月	若菜出張所庁舎新築移転 救急車更新 本署へ配置
63年 4月	消防署組織の規程改正

	若菜出張所、鹿島出張所を分遣所へ移行 夕張消防団長 石川十四夫氏が北海道消防協会長に就任 5月 夕張消防団長 石川十四夫氏が日本消防協会副会長に就任 6月 第40回北海道消防大会開催（於 夕張市総合体育館） 8月 日本消防協会から指令広報車1台が寄贈され清水沢支署へ配置 10月 消防職員定数改正（定員65名） 11月 広報原調車購入 本署へ配置 水槽付消防自動車購入 清水沢支署へ配置
平成	
元年 9月	ポンプ自動車1台購入 中央分団へ配置
11月	鹿の谷分団詰所新築
2年 7月	野田真氏が鹿島消防団長を退任
8月	日本消防協会から救急車（2B型）1台が寄贈され清水沢支署へ配置 日本消防協会から婦人消防隊に軽可搬ポンプ2台が寄贈される
9月	ポンプ自動車1台購入 幌南分団へ配置
10月	消防職員定数改正（定員63名） 日本損害保険協会から水槽付消防自動車1台が寄贈され本署へ配置
11月	夕張消防団条例改正 鹿島消防団が夕張消防団に統合 菊水分団を廃止 1本部15分団 定員387名に改組 夕張消防団に初の女性消防団員30名入団
3年 8月	日本消防協会から婦人消防隊に軽可搬ポンプ1台が寄贈される
9月	ポンプ自動車1台購入 滝の上分団へ配置
10月	消防職員定数改正（定員60名） 第7回全国婦人消防操法大会に婦人消防隊出場（横浜市）
4年 9月	ポンプ自動車1台購入 富野分団へ配置
10月	消防職員定数改正（定員58名）
11月	富野分団詰所新築 サイレン吹鳴遠隔装置更新
5年 9月	第17回婦人防火全国大会開催（於 夕張市総合体育館） ポンプ自動車1台購入 沼の沢分遣所へ配置
10月	佐々木茂が消防長を退任
11月	竹村弘二（消防本部次長）が消防長に就任

12月	消防署組織の規程改正 南部支署を清水沢支署に統合 南部分遣所に改組
6年11月	消防署組織の規程改正 沼の沢分遣所を廃止、分団へ移行
7年3月	竹村弘二が消防長を退任
4月	石井忍（消防本部次長）が消防長に就任 夕張市消防本部及び消防署設置条例改正 消防本部及び消防署を清水沢宮前町（旧清水沢支署を増築）へ移転 夕張市消防署組織の規程改正 清水沢支署を消防署に消防署を本町支署に、清水沢支署南部分遣所を消防署南部分遣所に、清水沢支署紅葉山分遣所を消防署紅葉山分遣所に改組 鹿島分遣所を廃止、分団へ移行
11月	消防団条例改正 夕張消防団を夕張市消防団に改称
12月	若菜分遣所を廃止、分団へ移行
8年1月	沼ノ沢4部にサイレン1基増設（沼の沢分遣所を廃止、分団へ移行）
3月	紅葉山分遣所を紅葉山165番地から紅葉山117番地に新築移転
11月	在宅老人緊急通報システム本署通信司令室に設置 ポンプ自動車1台購入 本署へ配置 救急自動車（2B型）1台購入 本町支署へ配置
12月	消防本部庁舎（43.06㎡）を増築
9年6月	石井忍が消防長を退任
7月	藤村吉彦（消防署長）が消防長に就任 指令車1台購入 本部へ配置 北海道消防操法大会ポンプ車操法に夕張市消防団が出場し準優勝
10年3月	藤村吉彦が消防長を退任 石川十四夫氏が団長を退任
4月	板谷義昭（消防本部次長）が消防長に就任 大西巖夫氏が団長に就任 大夕張分団が解団 1本部14分団 定員366名に改組
11年10月	道東自動車道 千歳、夕張間開通 高速自動車道事故対策訓練実施
12年1月	火災原因調査車1台購入 本部へ配置
3月	高規格救急自動車1台購入 本署へ配置 板谷義昭が消防長を退任

	4月	菅井信治（産業経済部長）が消防長に就任
	7月	清陵宮前分団が解団 1本部13分団 定員350名に改組
	11月	梯子自動車（15m）1台購入 本署へ配置
13年	4月	中央分団詰所を本町支署へ移設 南部分遣所を廃止、分団へ移行
14年	1月	資機材搬送車（クレーン付、2t車）1台購入 本署へ配置
	3月	菅井信治が消防長を退任
	4月	渡邊孝紀（消防本部次長）が消防長に就任 本町支署を本町出張所に改称 本町支署の救急2号車を引揚げ、本署に配置
	6月	石狩川水防公開演習に夕張市消防団23名参加
	9月	夕張消防公設100年記念事業実施
15年	6月	本町地区サイレン移設
	11月	自治体消防55周年記念大会出席
16年	9月	台風18号の暴風により全市で家屋被害、長時間停電被害、他に農業 土木・観光施設被害等 117棟
	12月	低気圧の暴風・大雪による長時間に渡る停電被害
17年	3月	渡邊孝紀が消防長を退任
	4月	佐藤公穂（消防本部次長）が消防長に就任
	9月	夕張市防災訓練実施
18年	1月	指揮広報車購入 本署へ配置
	2月	水槽付き消防ポンプ自動車Ⅱ型購入 本署へ配置
	4月	南部分団と幌南分団が統合 1本部12分団 定員350名に改組
	10月	紅葉山分団と楓分団が統合 1本部11分団 定員350名に改組 夕張市消防本部の組織に関する規則及び夕張市消防署の組織に関する 規定改正
	12月	夕張市消防音楽隊廃止
19年	3月	佐藤公穂が消防長を退任
	4月	鷲見英夫（消防本部次長）が消防長職務代理を就任 消防本部・消防署組織の条例及び規則改正 消防本部に防災係、消防署に庶務・団係新設 本町出張所を廃止、分団へ移行 紅葉山分遣所を廃止、分団へ移行 中央分団と末広分団が統合し中央末広分団へ 1本部10分団

		定員 260 名に改組
20年	9月	真谷地分団と沼の沢分団が統合 1本部9分団 定員260名に改組
	4月	若菜分団と鹿の谷分団が統合し、若鹿分団へ 1本部8分団 定員260名に改組
	9月	大西巖夫氏が団長を退任
	10月	小西真三氏が団長に就任
		JA 共済連北海道本部及びホーチキ株式会社から救急自動車及び救急資 機材寄贈 高規格救急車にぎ装 本署へ配置
21年	4月	鷺見英夫（消防長職務代理）が消防長に就任
	6月	夕張市消防本部に防災倉庫新築
	7月	機構改革により消防グループ制導入
	10月	高規格救急車購入 本署へ配置
22年	1月	消防署隣接地にヘリポートを整備 旧本町出張所を解体
	4月	夕張市消防長の任命資格を定める条例制定
	5月	大型水槽車購入 本署へ配置
	12月	消防ポンプ自動車（CD-I型）購入 若鹿分団へ配置
23年	3月	東日本大震災により緊急消防援助隊として3名職員派遣
	5月	東京消防庁新井総監が夕張・東京交流事業のため視察
	7月	訓練塔設置
	10月	道東自動車道 夕張、占冠間開通 高速自動車道事故対策訓練実施
	12月	消防ポンプ自動車（CD-I型）購入 紅葉山分団へ配置
24年	1月	東京消防庁との夕張・東京協力事業の開始 東京消防庁から派遣職員6 名が市内において消防事情調査を実施 夕張市消防本部から1名が東 京消防庁消防学校において研修を聴講
	4月	女性分団発足 菅原光子氏が初代分団長に就任
	12月	消防ポンプ自動車（CD-I型）購入 中央末広分団へ配置 鷺見英夫が消防長を退任 増井佳紀（消防本部次長）が消防長に就任
25年	1月	東京消防庁との協力・交流事業 東京消防庁から派遣職員6名が市内に おいて消防事情調査を実施 夕張市消防本部から2名が東京消防庁消 防学校において研修を聴講し、八王子消防署で実務研修を行う

	夕張市防災マップを作成
3月	夕張市防災講演会を実施（於 清水沢地区公民館）
12月	消防ポンプ自動車（CD-I型）購入 沼の沢分団へ配置
26年 1月	東京消防庁との協力・交流事業 東京消防庁から派遣職員4名が市内において消防事情調査を実施 夕張市消防本部から2名が東京消防庁消防学校において研修を聴講し、八王子消防署で実務研修を行う
11月	東京消防庁との協力・交流事業 東京消防庁から派遣職員4名が市内において消防事情調査を実施 夕張市消防本部から2名が東京消防庁消防学校において研修を聴講し、八王子消防署で実務研修を行う
12月	高機能消防指令システム運用開始 消防ポンプ自動車（CD-I型）購入 富野分団へ配置
27年 1月	消防デジタル無線運用開始
12月	消防ポンプ自動車（CD-I型）購入 滝の上分団へ配置
28年 4月	機構改革により課制に移行
9月	小西真三氏が団長を退任
10月	阿部広昭氏が団長に就任
29年 1月	消防ポンプ自動車（CD-I型）購入 南部分団へ配置
10月	高規格救急車購入 本署へ配置